

# 「令和2年7月豪雨」について

## 豪雨の概要

7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらしたこの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。

7月3日から8日にかけて、梅雨前線が華中から九州付近を通過して東日本にのびてほとんど停滞した。前線の活動が非常に活発で、西日本や東日本で大雨となり、特に九州では4日から7日は記録的な大雨となった。また、岐阜県周辺では6日から激しい雨が断続的に降り、7日から8日にかけて記録的な大雨となった。気象庁は、熊本県、鹿児島県、福岡県、佐賀県、長崎県、岐阜県、長野県の7県に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒をよびかけた。

その後も前線は本州付近に停滞し、西日本から東北地方の広い範囲で雨の降る日が多くなった。特に13日から14日にかけては中国地方を中心に、27日から28日にかけては東北地方を中心に大雨となった。

7月3日から7月31日までの総降水量は、長野県や高知県の多い所で2,000ミリを超えたところがあり、九州南部、九州北部地方、東海地方、及び東北地方の多くの地点で、24、48、72時間降水量が観測史上1位の値を超えた。また、旬ごとの値として、7月上旬に全国のアメダス地点で観測した降水量の総和及び1時間降水量50mm以上の発生回数が、共に1982年以降で最多となった。

この大雨により、九州地方の球磨川・筑後川・大分川、四国地方の吉野川、中部地方の江の川、東海地方の飛騨川、東北地方の最上川といった大河川での氾濫が相次いだほか、土砂災害、低地の浸水(河川水位が高く雨水等の排水が出来ない)により、人的被害や物的被害が多く発生した。(被害に関する情報は令和2年8月4日内閣府とりまとめ等による)。

## 豪雨の特徴

7月3日から14日までの総降水量が九州を中心に7月の月間降水量平年値の3倍を超える地点や、年降水量平均値の半分以上となる地域があり、1時間から72時間降水量の観測史上 1位の値を更新した地点は九州・岐阜県・長野県に集中し、西日本から東日本の広範囲に渡る長期間の大雨となった。

その要因は偏西風の蛇行の持続により本州付近に停滞した梅雨前線に沿って西から流れ込んだ水蒸気と、日本の南で南西に張出した太平洋高気圧の縁辺を回る南からの水蒸気が、西・東日本に大量に集まりやすい状態が持続したこと、気圧の谷の影響で上昇気流が強化されたことによる。

特に顕著な大雨となった3日から8日にかけては、線状降水帯が九州で多数発生し、総降水量に対する線上降水帯による降水量の割合が「平成30年7月豪雨」より大きいといった特徴が見られた。

## 問題点と対策

「令和2年7月豪雨」は7月3日から九州を中心に記録的な豪雨となり、さらには西日本・東日本と広範囲に渡り各地で甚大な被害をもたらしました。河川の蛇行地点、河川の合流地点の支流部に河川の氾濫、また河川水位が高く雨水等の排水が出来ない地点に浸水が多く見られた。

「何十年に1度」、「かつてない」と言われる自然災害が毎年のように起きており、気候変動による災害のさらなる激甚化が予測されます。「防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策」(2018年～2022年の3か年)の推進箇所になっていた重要水防箇所が氾濫・決壊していることから、治水計画をはじめとする各種防災対策を気候変動対応型の計画に見直し対策を講じる必要が求められます。住民が安心して生活できる地域を作り上げていくためには事前防災対策が必要である。

各河川の特性を踏まえ治水ダムの設置、堆積土砂の掘削、流下疎外が予想される樹木の伐採、橋梁の強靱化、遊水池整備、クリークの整備、溜池の改修、宅地の嵩上げ等の早急な治水計画策定と実行が必要と思われる。

(豪雨の概要情報は令和2年7月31日気象庁報道発表を、問題と対策情報は内閣官房及び自由民主党災害対策本部の「防災・減災、国土強靱化のための3か年対策」を参照)

## 大雨の状況(7月3日～7月31日24時)

### 主な1時間降水量(上位5位)

鹿児島県	鹿屋(かのや)市	鹿屋	109.5ミリ
鹿児島県	日置市	東市来(ひがしいちき)	98.5ミリ
熊本県	天草市	牛深(うしぶか)	98.0ミリ
長崎県	大村市	大村	94.5ミリ
鹿児島県	薩摩川内(さつませんだい)市	八重山	94.5ミリ

### 主な24時間降水量(上位5位)

大分県	日田市	椿ヶ鼻(つばきがはな)	497.0ミリ
鹿児島県	鹿屋市	鹿屋	496.0ミリ
熊本県	球磨郡湯前(くまぐんゆのまえ)町	湯前横谷(ゆのまえよこたに)	489.5ミリ
熊本県	水俣市	水俣	474.5ミリ
高知県	安芸郡馬路(あきぐんうまじ)村	魚梁瀬(やなせ)	466.0ミリ

## 大雨の状況(7月3日～7月31日24時)

### 主な期間降水量(上位10位)

長野県	木曾郡王滝村	御嶽山(おんたけさん)	2,135.5 ミリ
高知県	安芸郡馬路村	魚梁瀬(やなせ)	2,032.5 ミリ
岐阜県	下呂市	萩原(はぎわら)	1,810.0 ミリ
大分県	日田市	椿ヶ鼻(つばきがはな)	1,714.5 ミリ
和歌山県	田辺市	護摩壇山(ごまだんざん)	1,672.0 ミリ
宮崎県	えびの市	えびの	1,577.0 ミリ
熊本県	球磨郡湯前町	湯前横谷	1,559.5 ミリ
高知県	香美(かみ)市	繁藤(しげとう)	1,524.5 ミリ
熊本県	球磨郡五木村	五木	1,463.0 ミリ
岐阜県	高山市	船山	1,409.0 ミリ

## 人的・物的被害の状況(10月1日14時現在)

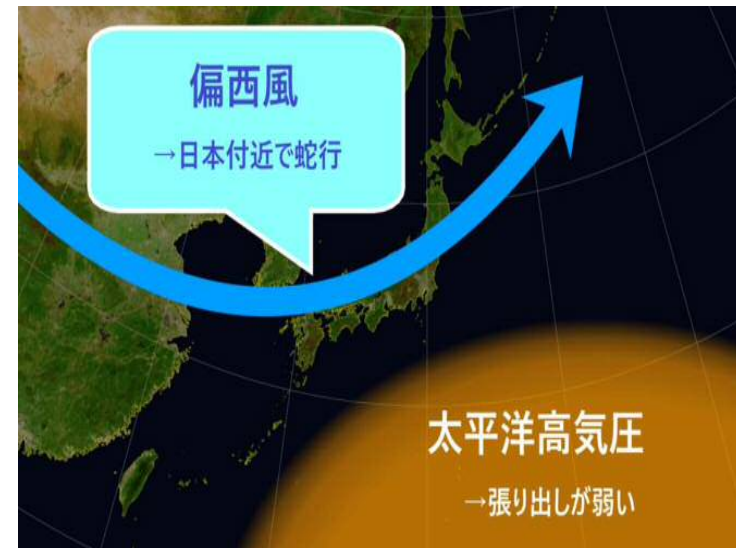
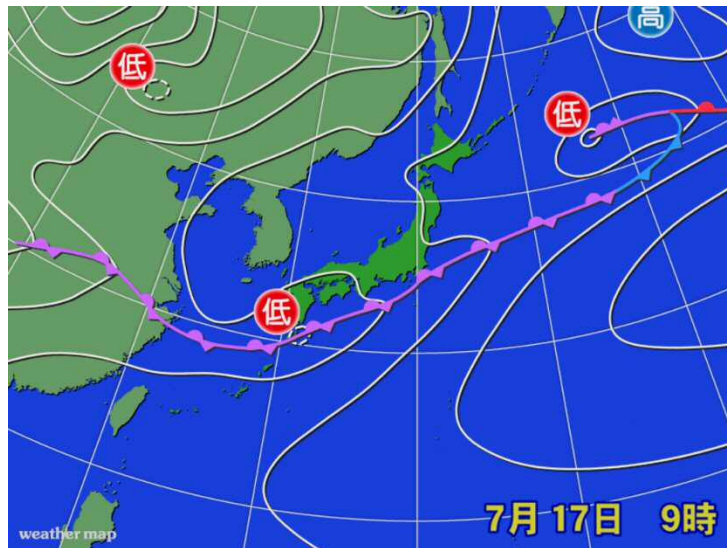
### 人的被害合計(35府県)

死者	行方不明	重症	軽症
84名	2名	8名	22名

### 住家被害(35府県)

全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
1,602棟	4,494棟	3,117棟	2,645棟	5,821棟

# 天気図の様子(梅雨前線の停滞)





記録的な大雨で冠水した熊本県人吉市街＝4日午後 [時事通信ヘリコプターより]



熊本県芦北地区 土砂災害





JR肥薩線・球磨川第一橋梁流失





熊本県球磨村渡地区

避難所の様子





自衛隊の災害派遣



冠水した街の様子

